

道徳通信

愛西市立八開中学校
令和4年1月19日
青ブロック職員



「本当の礼儀の意味について、考えを深めよう」～道徳「秀さんの心」を通して考えました～

職場体験で造園業の仕事を体験することになった昌雄と久志。お辞儀ひとつにしても厳しく指導する親方の秀さんに、昌雄は内心反発します。「(体験が)早く終わって、口うるさい秀さんから逃れたい」。ところがある日、昌雄の寝坊で遅刻をしてしまった二人。厳しく叱られると思い「バスが遅れて・・・」と嘘でごまかそうとした昌雄に対して、秀さんはひと言「無事についてよかった。さあ仕事を始めよう」。その後、同じ職人の伸さんから、秀さんが二人のことをとても心配していたことを聞かされます。剪定する木に対して深々とお辞儀をする秀さんの後姿を見ながら、胸が熱くなる二人。

授業では、秀さんに対する昌雄の気持ちの変化を追いながら、本当の礼儀の意味とは何かについて考えました。

●● ●●さん

義務の礼儀ではなく、気持ちを込めた礼儀が大切だと思った。

●● ●●さん

「丁寧」を意識することで、礼儀をもらった相手に(自分の)思いが届きやすくなるかなと思った。

●● ●●さん

本当の礼儀についてちゃんと考えることができた。輝さんの意見で(礼儀は)自然にでてくるものという考え方に、確かにそうだと思った。

●● ●●さん

「礼儀は人柄を表す」ということをよく聞くけど、今回の話を通してその意味がよく分かった。これからは何にでも礼儀を意識していきたい。

●● ●●さん

(自分たちは)実際に職場で体験することはできなかったけれど、もし行けていたら、この物語のような礼儀などの大切なことを学べていたのかなと思った。

●● ●●さん

生活していく中で、いろいろな人や物などに助けられているから、日頃から感謝の気持ちをもとうと思った。あらためて礼儀は、人間関係で必要なんだと思った。

●● ●●さん

礼儀とは自分をよく見せるためにやるとか、ルールみたいなイメージを持っていたけど、礼儀とは誰に対してもどんな時も当たり前のように相手を思うことができることだと思った。少しずつ身につけていけるように頑張りたい。

●● ●●さん

今回の授業を通して、私は常に自分が思う本当の礼儀をしているのかなと思った。どんな場面でも謝罪や感謝の気持ちをもって日々過ごしていきたいと思った。

●● ●●さん

礼儀と言うのは言動も多少あるけれど、それより心から言ったりしったりすることが大事だなって気づいた。

